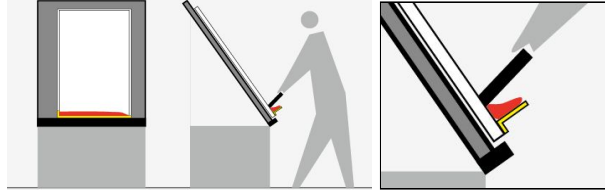


平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成 31年 1月 31日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	助教	氏名	岡本 汐加
研究課題	シルクスクリーンプリント技法を扱った演習科目の指導方法について					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	岡本 汐加	デザイン学部 造形デザイン学科 助教	テキスタイル デザイン	企画・実施・報告	
	分担者					
研究実績 の概要	<p>1. 研究の目的と背景</p> <p>本学では、1993年の開学当初からの染織関連設備・道具が十分に備わっており、手捺染用のシルクスクリーン用捺染台は特筆に値する規模である。既存の資産を有効活用するためにも、この技法に特化した授業を継続して行っていくことは必至である。申請者は、昨年度より本学テキスタイルデザイン関連演習科目担当となったことをきっかけとして、本学と国内外のシルクスクリーンプリント科目を持つ高等教育機関との比較を行い、同技法に対する認識の標準化及び手順の明確化を行なった。本年度は、単に基本技法習得促進を目的とするだけでなく、市場での在り方を踏まえてシルクスクリーンプリントの可能性を探求し、応用技法に対する理解を促進させる方法を開発することを目的とする。</p> <p>2. 実施内容</p> <p>① 技法の明文化</p> <p>本学の設備にあわせて手順を記した独自の手引（捺染に至るまでの下準備を含む）を作成・刷新した。シルクスクリーンプリントの基本として顔料及び染料による直接捺染を取扱うこととし、応用的な技法として送り（リピート）のある捺染方法と「特殊プリント」を手引きの項目に加えることとした。本研究の中心として、数多の特殊プリント方法から基本技法習得後の学生に対して伝達すべき方法を検討、文献調査と本学での実験によりこれを選定し、実際に演習科目で伝達した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>② 設備・道具のアップデート</p> <p>本学設備の手捺染用捺染台を活用できるように整備を行った。今回、捺染時に色糊（インク）が図1に示すように溢れるために、印捺する布や捺染台の側面を汚している事象について、本学のシルクスクリーン枠寸法にあわせた”糊受け”を作成・装着することで解消した。</p>  <p>図1 糊受け装着前</p>  <p>図2 糊受け装着後</p> <p>③ 申請者の学外での活動</p> <p>繊維機械学会中国支部研究及び事例発表会（岡山県立図書館）において、①の「特殊プリント」に関する調査・実験内容を発表した。デザイン学ではなく繊維工学専門家からの見地による助言を受けることが出来た。同学会主催のセミナー（大阪科学技術センター）において「特殊プリント」の定義とその分類について明確にすることができた。加えて、京都市産業技術研究所にて①の手引草案を監修いただき、これらの情報を科目にて反映させた。</p> <p>3. 今後の展望</p> <p>今回の焦点であったシルクスクリーンプリント応用技法としての「特殊プリント」の中には、市場で確立した技術でありながら、安全面から取扱を断念したものがあつた。捺染を含む染色では、助剤を使用することでその効果を得る場合が多く、今後継続して応用技法を導入していく場合、より一層安全性の高い研究制作環境の整備に注力していかなければならない。</p> <p>時代の変化に伴い急速に進む産業の効率化は、テキスタイル業界では前提問題となっている。その過程で失われていく技術は数多く、シルクスクリーンプリントも後続技術のデジタルインクジェットプリントにより存亡の危機にある。捺染について知る者も急激に減少しているとの声があり、多様なテキスタイルデザインを可能とするこの技法の存在価値は未だ残っていると考える。安全面・環境への配慮を視野に入れ、今後も継続的にシルクスクリーンプリント技法の本学での環境充実を図っていく必要がある。</p>
	<p>成果資料目録</p>